



Go!
プリンセスヌッキキュア

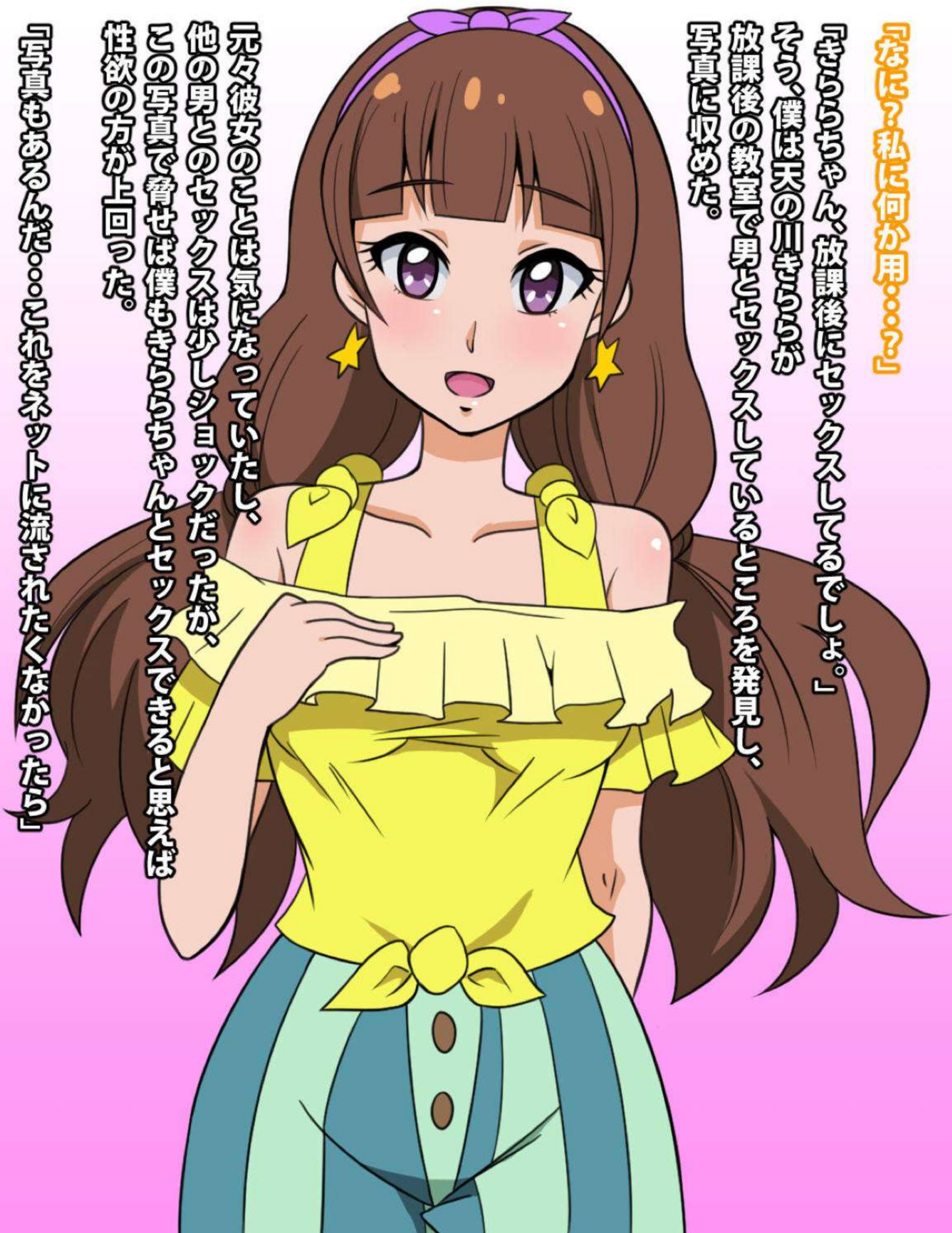
かごのみどり鳥

「なに？私に何が用……？」

「きくらちゃん、放課後にセックスしてるでしょ。」
そう、僕は天の川きくらが
放課後の教室で男とセックスしているところを発見し、
写真に収めた。

元々彼女のこととは気になっていたし、
他の男とのセックスは少しショックだったが、
この写真で脅せば僕もきくらちゃんとセックスできると思えば
性欲の方が上回った。

「写真もあるんだ……これをネットに流されなくなったら」



「知ってる。先週の水曜日でしょ。」

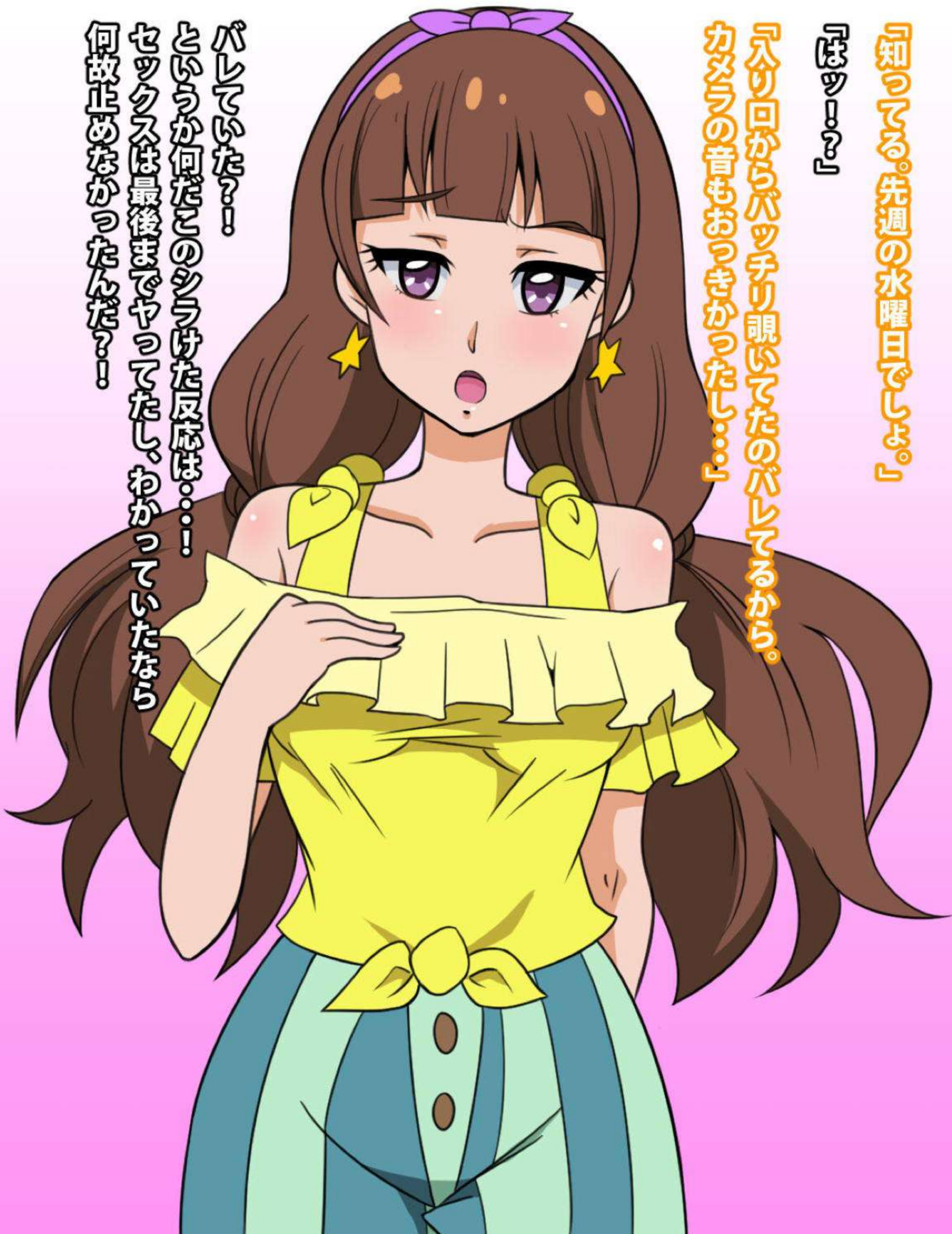
「ほーっ」

「入り口からバツチリ覗いてたのバレてるから。カメラの音もおっきかったし……」

バレていた?!

というか何だこのシラけた反応は……!

セックスは最後までやってたし、わかっていたら何故止めなかったんだ?!



「ただ、だ、だ、この写真をさらさらされたら…」

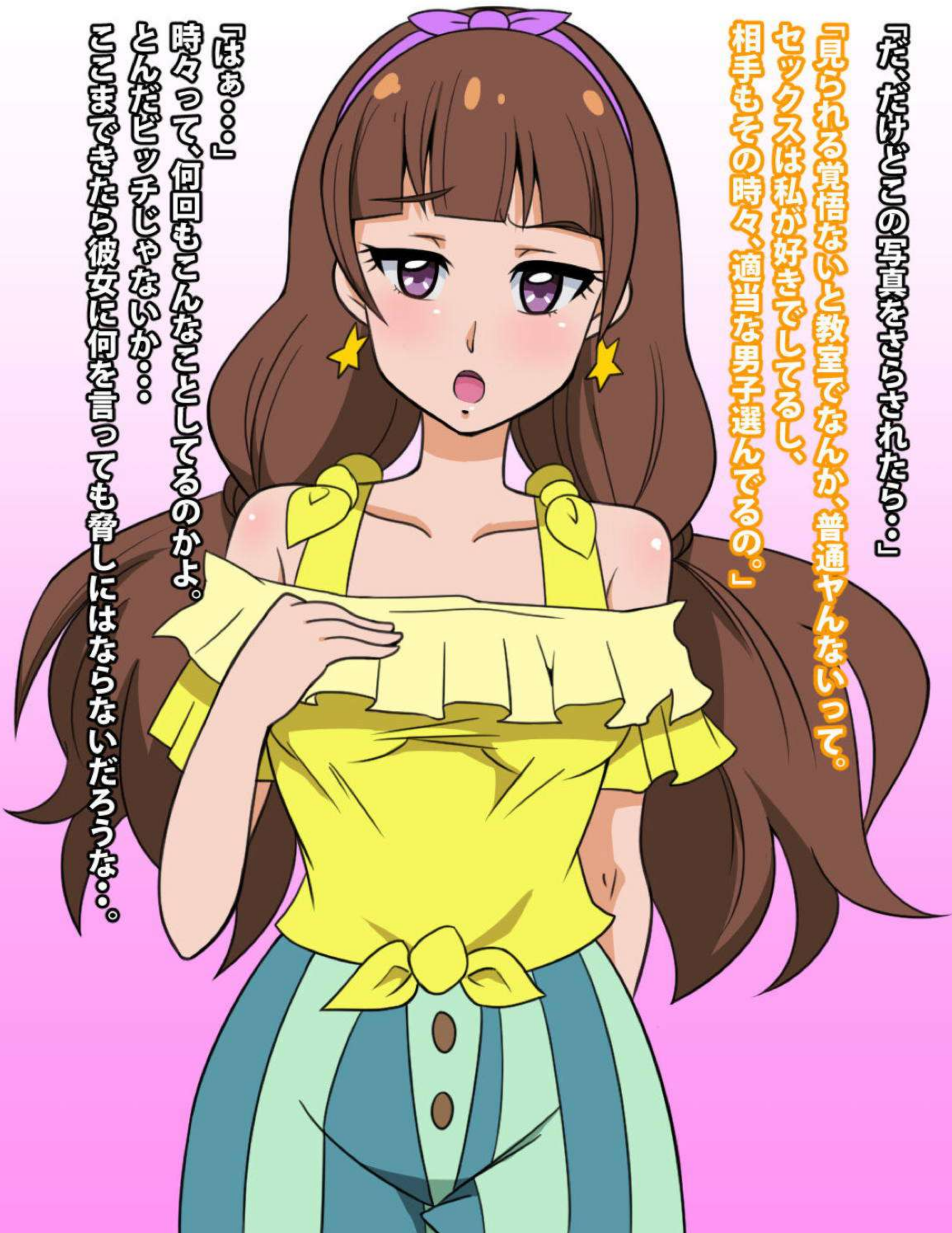
「見られる覚悟ないと教室でなんか、普通やんないって。セックスは私が好きでしてるし、相手もその時々、適当な男子選んでるの。」

「はぁ…」

時々って、何回もいじらないでっけるのかよ。

とんだビッチじゃならぬ…

どこまできたら彼女に何を言っても脅しにはならぬだろっとな…



『ドクメンタ…やりたいの』

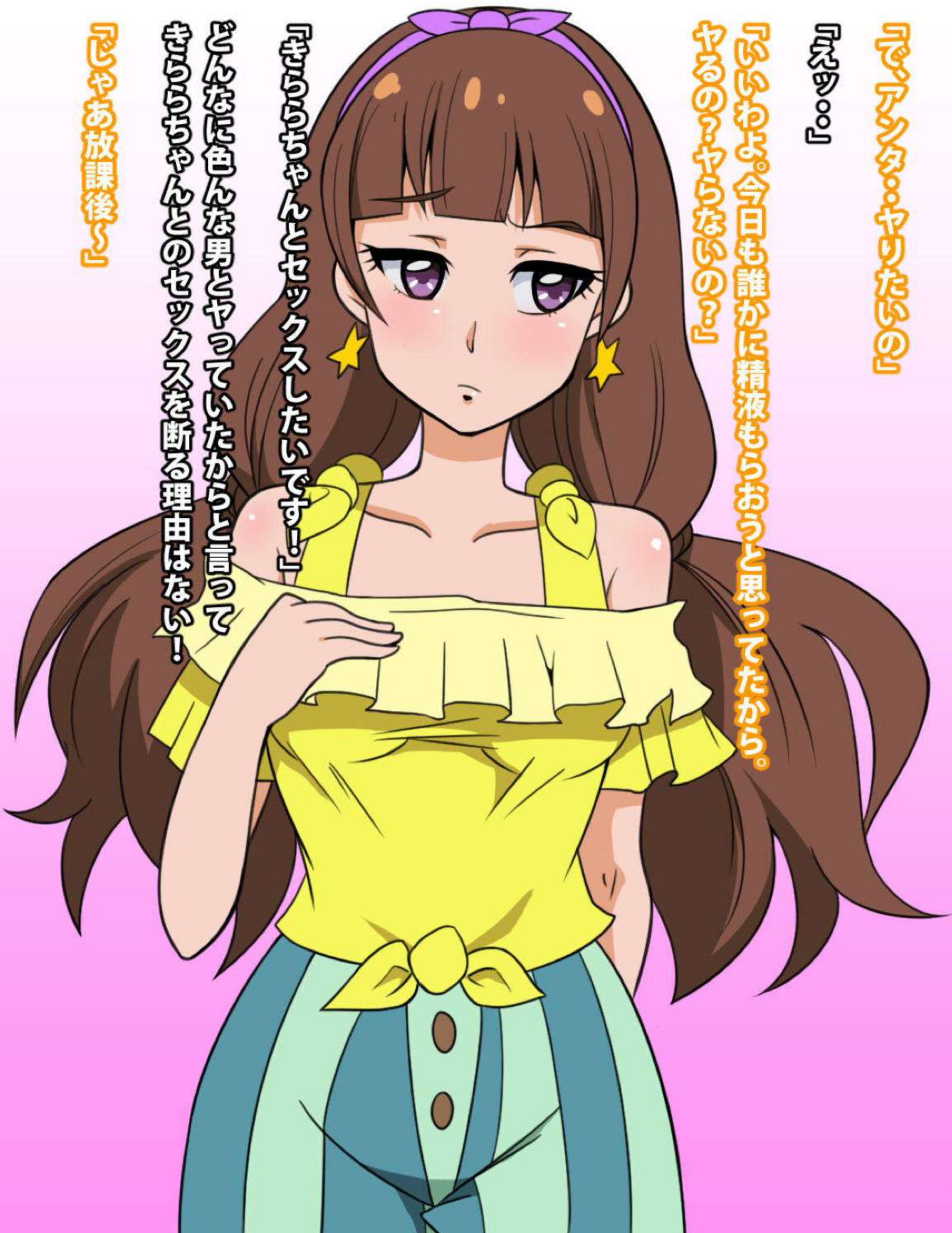
『ぐへっ…』

『はいわよ。今日も誰かに精液もらおうと思ってたから。やるのっ…やらないの?』

『きゅんちゅんちゅんちゅんセックスしたいですー!』

『どんなに色々な男とやっていたからと言って
きゅんちゅんちゅんちゅんのセックスを断る理由はない!』

『じゃあ放課後〜』



「ふふっ…アンタ童貞でしょ。
まだ触ってるだけなのに。ピクピクしちゃって。
シコシコするから頑張って耐えてね☆」

「へっ」



自分でするのと全然違う……っ
自分でするときはすぐイキそうになっても
スピードをゆるめて射精を調整できるけど……

きゅんきゅんちゃんの手のペースが
絶妙に変化していて、それが射精を我慢させてくれない……ッ



「頑張るね。
今からもっと激しくミミ」
「ふふふ」

「ふふふ」



「あはっ」



「いっぱい出たわね〜」

「ふふふと我慢できなくてっら」

「いいわよ。初めてならこんなもんでしょ。」

「それよりアンタの精液・濃くて量も多くて最高！
★ねえ！まだビンビンだしできるよね……。」



「次は足コキね！」
私は身体中手入れはおこったってないから
足も気持ちいいわよ。」

きららちゃんに踏まれる妄想はしたことあったけど
まさかチ○コを踏んでもらえるなんて…

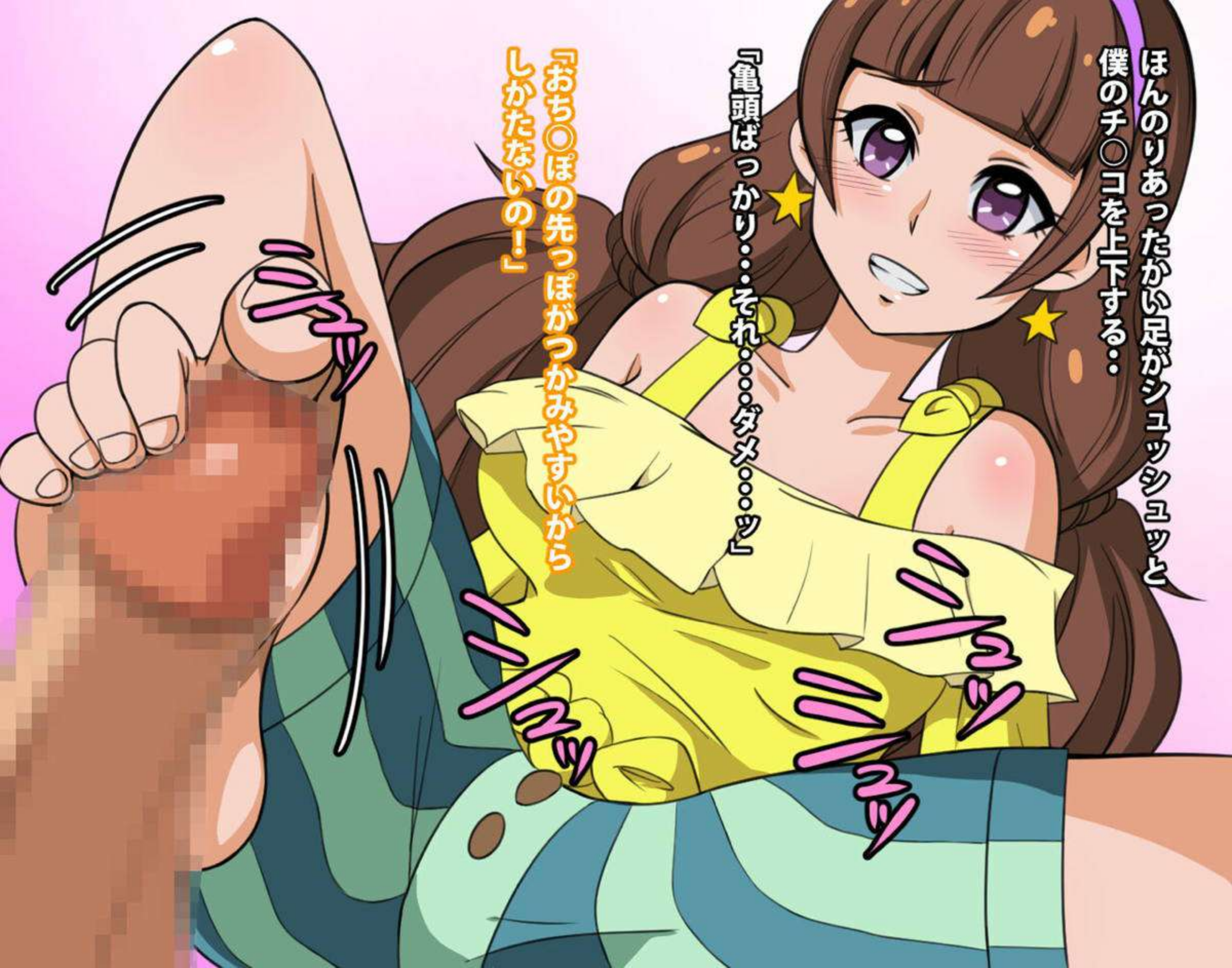
手とは全く逆のぎこちない動きが
亀頭を重点的に責めてくる。

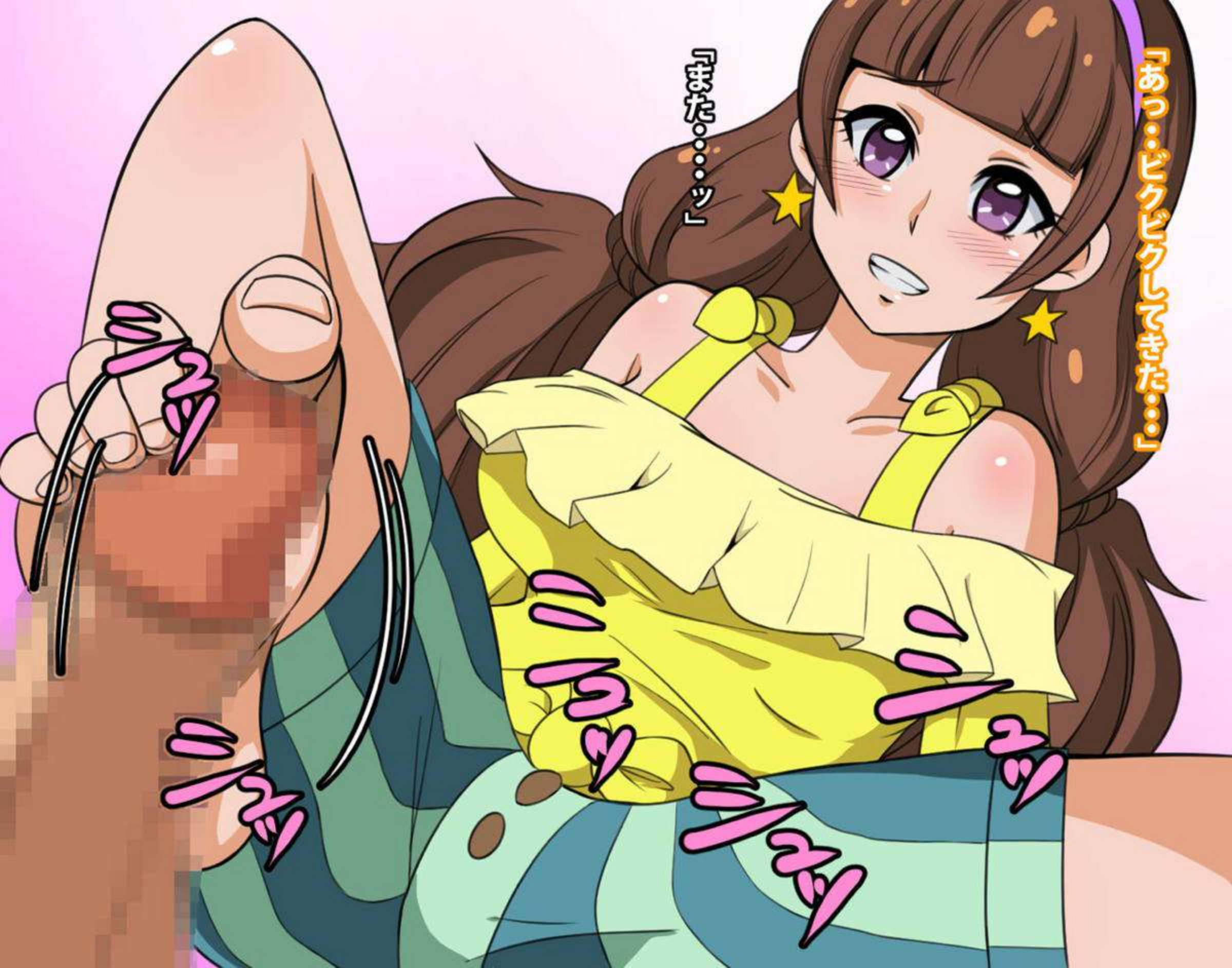
すっぴん

ほんのりあったかひ足がジヒジヒヒヒ
僕のチ○コを上下する...

「亀頭ばっかり...それ...ダメ...ッ」

「おち○ぼの先っぽがつかみやすいから
しかたないの!」





「また……ッ」

「あっ…ビクビクしてきた…」

パッパッ

パッパッ

パッパッ

パッ

「え、うそ…まだ勃起してるの…??
アンタ、予想外ね!
こんなに出しても萎えないなんて!」

「性欲が強いのはだけは自身があるんだ…。」
と言ったものの、自分でも驚いている。
オナニーのときより精液の量は多いし、
全然勃起がおさまる気配がない…。

一生に一度の体験かもしれないんだ
きららちゃんに出せるだけ射精して
僕の精液でドロドロにしてやるッ。



どお？おっぱいは柔らかいでしょ。
見るのも初めてだもんね。」

「おっぱいんるんるーんぬ…ん。」

「私あんまりパイズリしないんだけど、
アンタは特別。」



互い違いにおっぱいがチ○コをいじぐ。
やわらかい感触が力加減で
キツキツになったり戻ったりして
とても心地がよい気分だ。



「ウツ……
射精る……」

「あんツ!!!」



「びゅん…我輩でやなべん…」

「うんちも3回目…」

普通のおち○ぽじゃ楽しめない域よ?」

「本当にどれだけ精液たまってるの!」
もお…これ以上の快感を与えるならアレし
かないわよね…」



「きゅらちゃん…本当にくの…」

「私だっってもう我慢できないんだから！
おち○ぼ生ハメセックスさせてよ！」

「憧れのきゅらちゃんに挿入できるなんて…
僕死んでもいいかも…」
くちゅ。

「大げさね。私のおま○こでおち○ぼ昇天
させてあげるから覚悟しなさい。」



「あん…ツッ！」

童貞おち○ぽキタあああああ…！」

ぐう…ぬるぬるしてて気持ちよすぎるッ…！」

これがマ○「…」

オナホールとは比べ物にならない程

肉壁がチ○コを絞めつけ、

ひだひだが僕の形に合わせて吸い付いてくる…ッ

初めてがきりりちゃんといつのもあって
快感がおさえられない。



「奥まで…届いてるジ…!!
学生のおち○ほじゃ届かないから…
すごい…わよ」

きらりちゃんの子宮に
僕の子○ロが届いてる…!!

これは…もっ…っ

すちゅ

すちゅ

じゅぽっ

すちゅ





射精で

あーっ!!

「きくらちゃん…膣内で…」

「いいわよ、私も気持ちよかったし。
それよりアンタ…名前は？」

「○○…1年2組の」

「○○くんね。これから私のセフレにしてあげる。
多分もう○○くん以外の男子とはしないから
どう…？なってくれない？」

元々脅して犯そうとしていただけなのに
セフレになってほしいなんて
しかもきくらちゃんから…

「お願いしますー！」

「それじゃあ明日もまた…放課後にね♡」

ドゥドゥ

ドゥ

ー 次の日の放課後 ー

待ち合わせた場所にはきらりちゃんじゃなく、
キュ○トウインクルの姿が……

「なんで…プリキュアが?!?!」

「あははは……っ」

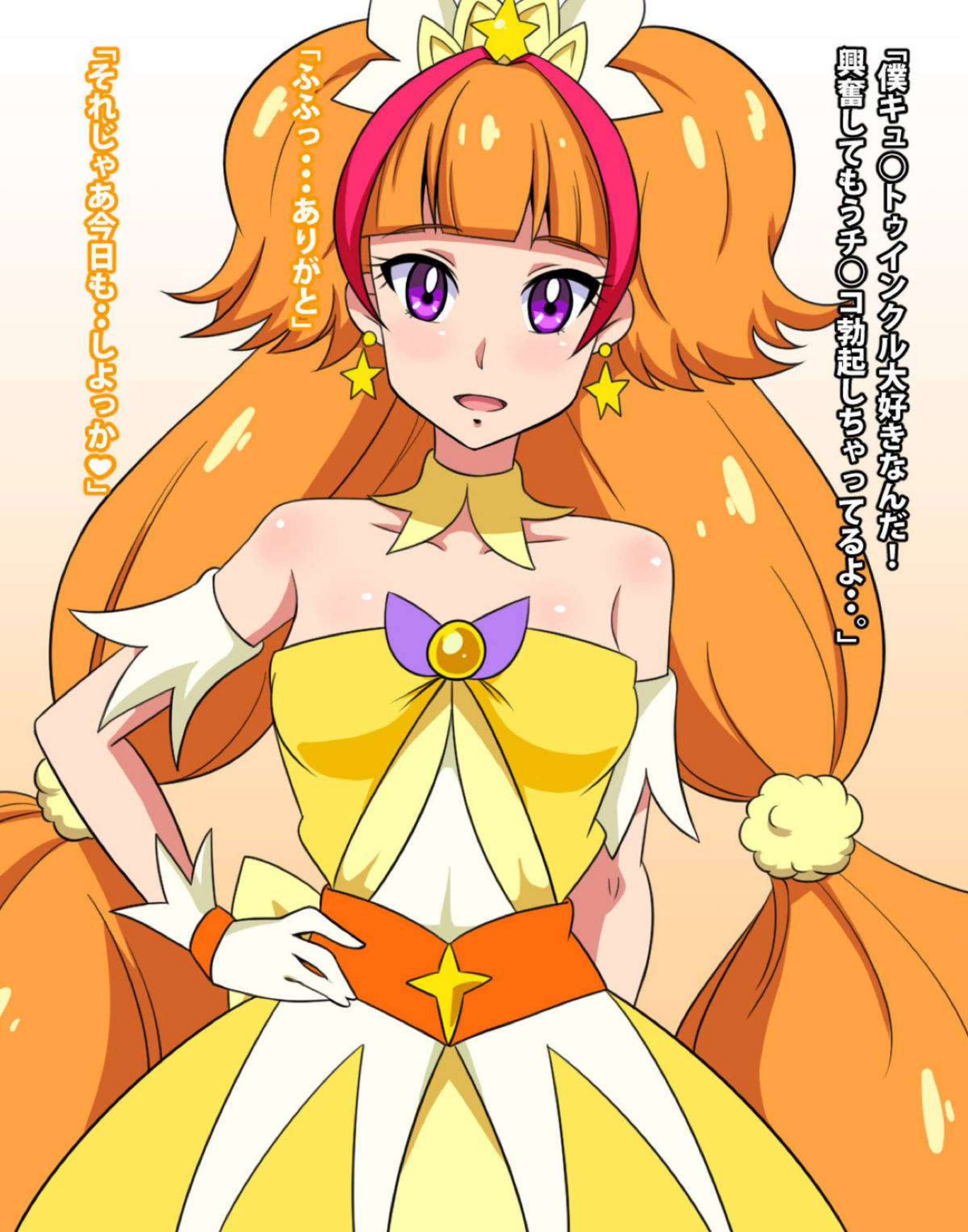
「やつぱわかんないもんなんだ」



「僕キュ○トウインクル大好きなんだ！
興奮してもっち○「勃起しちゃってるよ…。」

「ふんっ…ありがと」

「それじゃあ今日も…しよつか○」



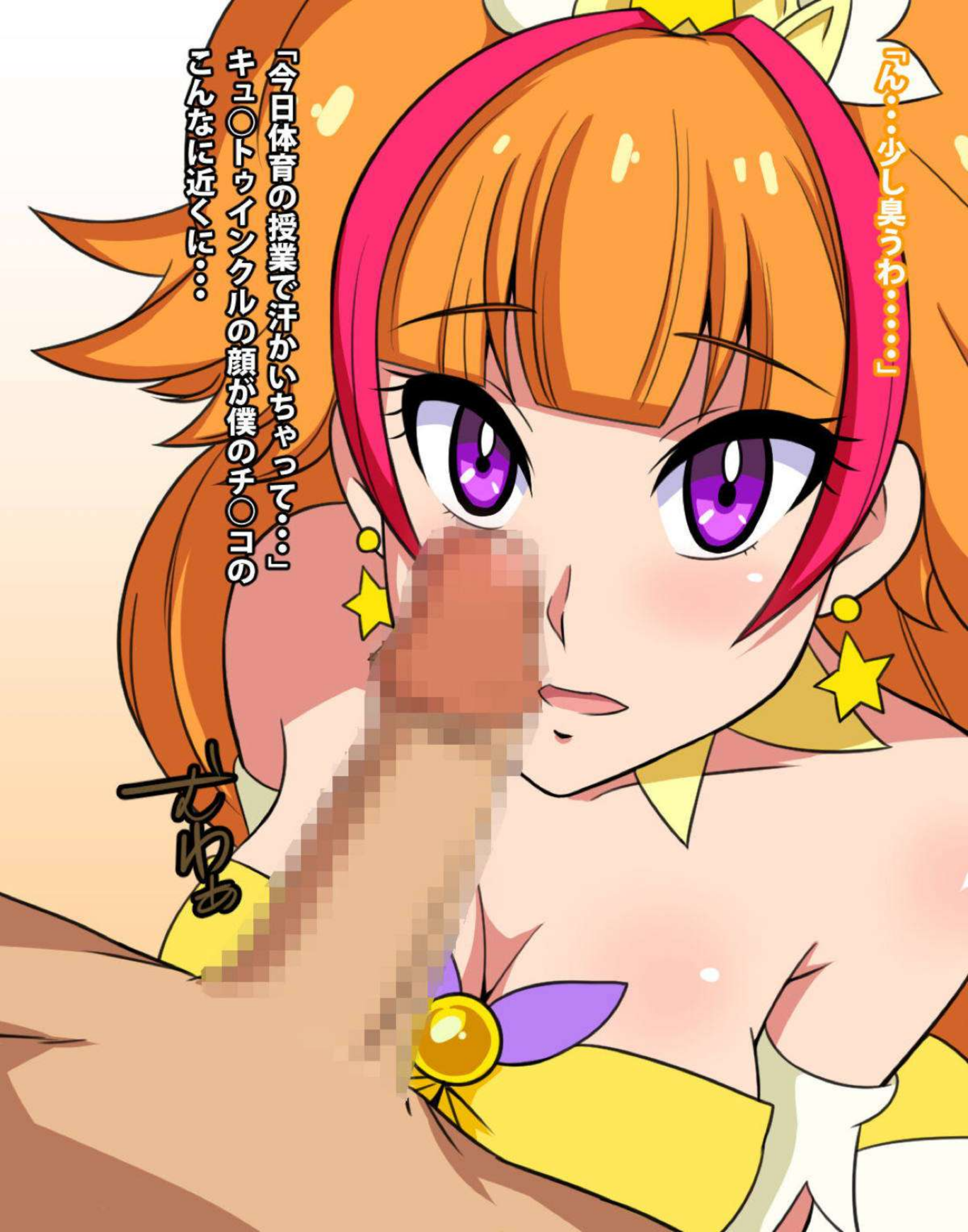
「まずはフェラチオから・・・」



「ん…少し臭うわ…」

「今日体育の授業で汗がいちゃって…」
キュ○トウインクルの顔が僕のチ○コの
こんなに近くに…

むゅあ



啜えた瞬間に舌がじゅるじゅる
僕のチ○コの周囲を回る

唾液がどんどん増えて
いやらしい音が
誰も居ない静かな教室に響きわたる。

いゅあ

いゅあ



おはよう

んんん

「昨日で感触はわかるでーじょっ
ゆっくりやったげるから我慢できてるぅーおっ」



「ふっふっ」

確かに昨日と同じだけど……

キュ○トウインクルにパイズリされてると思つと……

「ぎゃっ」

「ふっふっ……ダメよ我慢して。」







「我慢してっつて言ったのに」

「できませんでした。」

ダメだ…。全然耐性がない…。ッ！

前までオナニーしまくっていたのに、

このままじゃきりりんちゃんに嫌われちゃうかも…

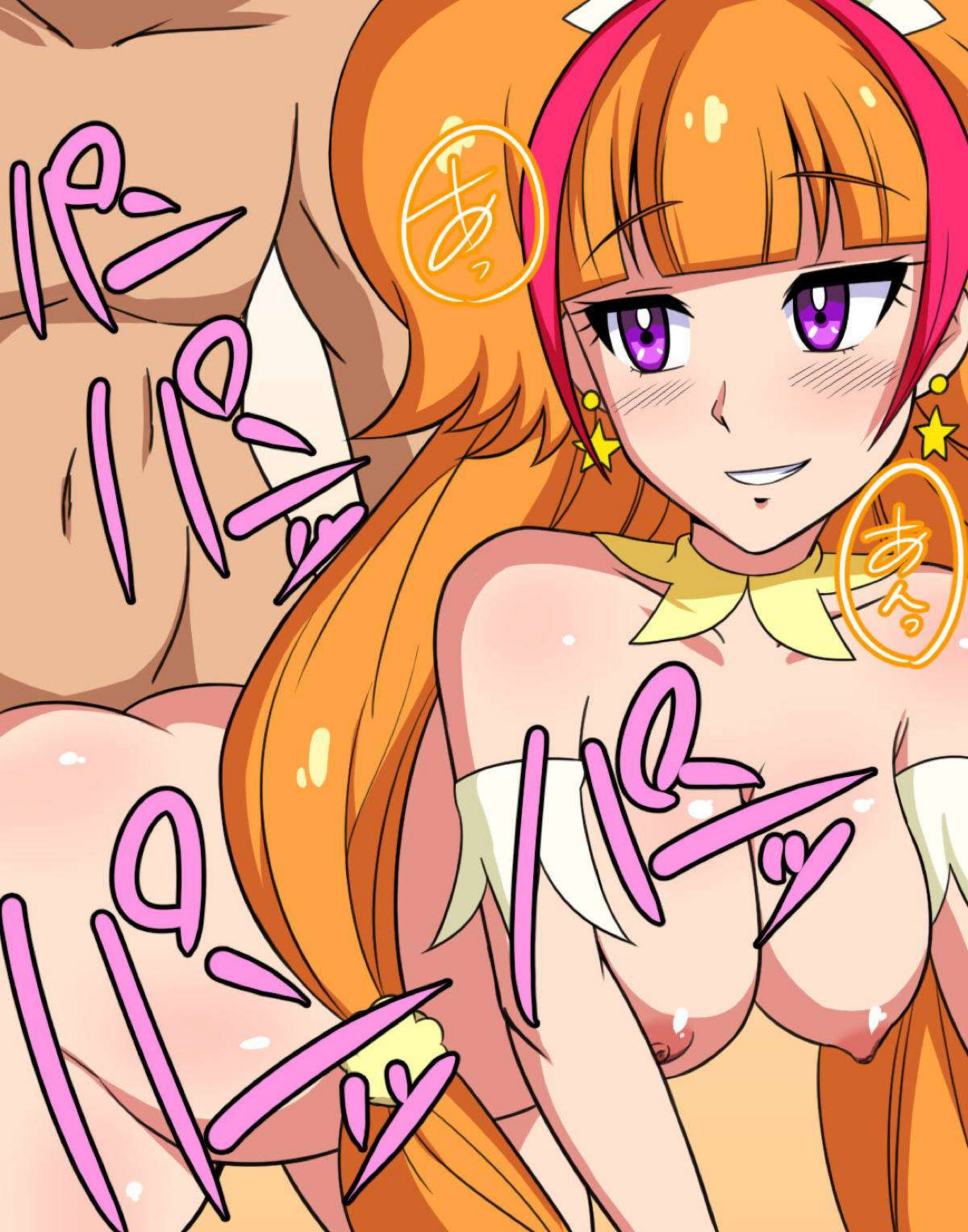


「○○くんが動くのね」

絶対きくらちゃんをイかせてやる。
自分のペースで動けばどうにか

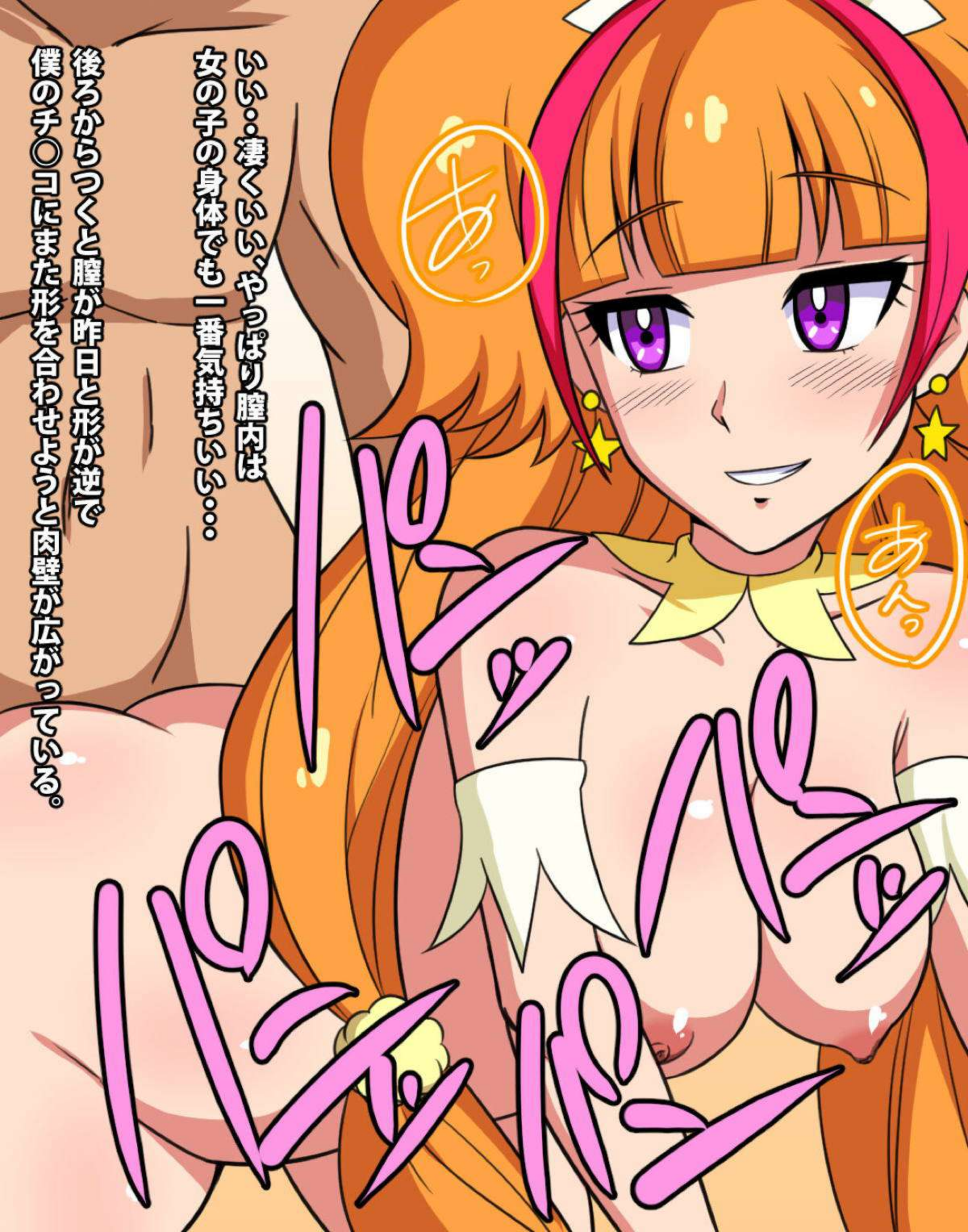






いい・凄くいい・やっぱり膣内は
女の子の身体でも一番気持ちいい...

後ろからつくと膣が昨日と形が逆で
僕の子○にまた形を合わせようと肉壁が広がっている。



「○○くん……」

やばい……自分のペースで動いてることに
怒った？！満足できないから……

これは嫌われた……





『やっぱり○○○○んのおち○ぽ、
私のおま○んとの相性はつぐん!!!』

『くっくくくく』

「きんぐらちゃん…」
「自分のことしか考えてないから
僕嫌われたのかと思った…」



「それは射精我慢するために
やってたことですよ

私のおま○ここんなに濡らしておいて

自信がないなんて…もう少しプライベートでも

付き合う時間増やしてお互いを知らなきゃかしら。」

ほ

ずほ



『これから私と○○くんの関係は
終わらないわよ。
ちゃんと我慢できて、私を○○くんの力で
イカせることができたなら彼女になってあげる♡』



END...